

平成 28 年度  
「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」  
報 告 書

平成 28 年 10 月

## 平成28年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』 市民の提案・意見のまとめ

10月2日に開催された「市民レビュー」では、市民の皆さんからたくさんの意見・提案、感想などが出されました。市民の市政への参加意欲をさらに高めるためにも、市がそれらの意見等をきちんと受け止め、可能なものは今後の施策に活かす方向で検討を進めていただくよう、お願いいたします。

平成28年10月28日

平成28年度「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」

コーディネーター 窪田 好男

### 【主な提案・アイデア】

1. 多くの人が「舞鶴の良さ」を知らない。舞鶴が住みやすく、子育てしやすいまちであること、高等教育機関も充実しており、仕事もあるということ等、情報発信を積極的に行う。
2. 移住希望者がワンストップで相談できる窓口を設置し、分かりやすく紹介する。
3. 移住・定住のターゲットを絞り、舞鶴に移住するメリット、舞鶴のコンセプト、テーマ等を魅力的に発信する。
4. 小・中学校でのふるさと教育の充実、職場体験・社会見学等のさらなる充実を図ることで、地元での就労への意識を高める。
5. 舞鶴を離れている大学生へ直接的に地元求人情報を提供するとともに、子どもが進路を決定する際の相談役となる親に対しても、積極的に地元高等教育機関の情報や地元求人情報を発信する。

### 【意見・感想】

1. 市民が舞鶴の良さや田舎暮らしの良さを知りPRすることが必要。
2. 移住者を「よそ者」として排除する意識を変え、市民が移住者を受け入れる気持ちを持つことが大切。
3. 舞鶴は他地域に比べ、子育て支援の先進的な取り組みをやっていると思う。
4. 行政に「何をしてもらおうか」ではなく、自分たちが何ができるかという意識を養っていくことが重要だ。
5. より成果を出すためには、地方創生の実現に向け、関係団体がさらに連携して取り組むと良い。
6. 市民レビューでいろいろな人と意見交換でき有意義だった。課題もあるが、様々な取り組みをしており、良いまちに住んでいると実感した。

## 平成28年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』概要

### 《今年度の市民レビューについて》

#### ◆概要

舞鶴版・地方創生を市民と一丸となって推進するため、「政策・事業のPR」、「市民の意見聴取」、「市民意見の事業への反映」「市民の市政参画」を進めることを目的に実施。

第1部では、舞鶴版・地方創生全般について、多々見市長がその狙いや目標等を説明。

第2部では、舞鶴版・地方創生の取り組みのうち「定住人口減少抑制に向けた取り組み」について市が説明した後、市民審査員が意見交換と評価を行った。

#### ◆参加者

◇ コーディネーター 窪田好男 京都府立大学公共政策学部教授

◇ コーディネーター補助員 2名

(京都府立大学大学院公共政策学研究科 大学院生、公共政策学部 学部生)

◇ 市民審査員(15名)

みらい戦略推進会議 7名

(舞鶴商工会議所、舞鶴青年会議所、舞鶴公共職業安定所、近畿財務局京都財務事務所舞鶴出張所、日本政策金融公庫舞鶴支店、NPO 法人まいづるネットワークの会、舞鶴市PTA連絡協議会)

学生3名(舞鶴工業高等専門学校、京都職業能力開発短期大学校、舞鶴YMCA国際福祉専門学校)、

市民(公募)2名、市民(無作為抽出での依頼)3名

◇ 傍聴者(69名)

#### ◆内容

【第1部】舞鶴版地方創生について 多々見市長によるプレゼン

【第2部】市民レビュー テーマ「定住人口減少抑制に向けた取り組み」

3つのテーマについて市民審査員による意見交換・評価。

##### ●第1テーマ「移住・定住の促進」

※地域で取り組み事例(布敷地区)の発表もあり

##### ●第2テーマ「子育て・保育・教育環境の充実」

##### ●第3テーマ「質の高い教育環境づくり、地元就労支援」

## 第1部 舞鶴版・地方創生について

### (1) 市長あいさつ

市役所の取り組みを市民の皆さんが知る方法はいくつかある。私は、情報共有の仕組みをより良いものに変えるため、まず、広報誌「広報まいづる」を、行政の方向性を示し目標の共有を進めるための「戦略的広報」に変えた。

また、市の最新情報を提供するメール配信サービスを始め、HPも刷新した。防災行政無線の設置個所を増やすとともに、防災行政無線が聞こえにくい場合にその内容を電話で確認できるシステムを作った。

私は、市政は市民の皆さんや各種団体の人たちとともに全員野球でやらないといけないと思っている。今日は、現在、取り組んでいる「舞鶴版・地方創生」についての情報提供と取り組みがこれで良いかどうか、また他の方法があるのかどうかという点について皆さんのご意見を伺いたい。

### (2) 市長によるプレゼン～「舞鶴版・地方創生」について～（資料による）

「舞鶴版・地方創生」  
について、熱く説明する市長



当日は、たくさん市民が傍聴に来られる

## 第2部 市民レビュー 「定住人口減少抑制に向けた取り組み」

### 第1テーマ 『移住・定住の促進』

(1) 担当課による説明(資料による)

(2) 地域での取組発表(資料による)

地域の活性化に向けた地域の主体的な取り組み事例を布敷地区が発表



布敷地区の発表の様子

(3) 市民審査員による意見交換

—主な意見—

#### ① 取り組みをより良くするためには

##### 取り組み全般について

- 大人世代に地元舞鶴の良さを認識させる。
- 舞鶴を離れた若者が戻ってくるためには、子どもの時から、舞鶴についてもっと学習することが必要。小学校・中学校・高校と繰り返し学ばせること。
- 「舞鶴には何も無い、仕事もない」というイメージがある。「舞鶴の良さ、さまざまな取り組みをしていること、住みやすいまちであり仕事もあることなど」を知らない人が多いので、若者が都会に出なくても良いと思ってもらえるような情報発信が必要。
- 現状の支援策は継続することが大切。
- 移住・定住が進んでいる他市の事例を研究し、舞鶴でも取り組めないか検討する。

##### 移住・定住の支援について

- 移住希望者がワンストップで相談できる窓口を設置、HPでも目立つところに表示する。
- 週末だけ舞鶴に滞在できる「ウイークエンドハウス」を提供し、農業や釣りなどのレジャーを通じ近隣住民との交流を図る。
- 学生など若者が週末に舞鶴に来て、安く宿泊できる場所があると良い。
- 「空き家情報バンク」をもっと市民に広報する。
- 「空き家再生事業補助金(空き家の購入・賃貸時に改修工事費用一部補助)」と同様に、空き家を借りる際に補助金を出す。
- 潜在的な空き家の掘り起こしに工夫が必要。家主の貸すことへの抵抗感をなくすため、市が借り上げて移住者に渡すなどの工夫を。
- これまでの移住者が舞鶴を選んだ理由が分かれば、移住促進のターゲットが見える。その分析が必要。移住・定住のターゲットを絞ることが必要。

##### 婚活の支援について

- 婚活という名前のイメージが良くない。
- 若い世代には、結婚を前提としない気軽に参加できる出会いの場が必要。
- 企業と学生がコラボする場や休日に学生がまちづくり活動を行う場、学生主体のイベント

- トを企画する。
- 年齢やターゲットを分けて、イベントを実施する。

#### 就職の支援について

- 都会の若者に向けて舞鶴の企業が優秀な若者を大切にすることをPRする。
- 他市と比べ舞鶴市内の企業の給料が少ないと聞くので、給与を上げる取り組みも必要。  
(例：市の入札は地元企業を優先等)

### ② 市民ができること

#### 取り組み全般について

- 各自治会が地元の宝物を見つける取り組みを進める。
- 口コミで舞鶴の良さ、田舎暮らしの良さ、市が発展してきていることなどを伝える。
- 郷土愛を育むため、地域の歴史や地理などを学べるような教育を地域で行う。
- 市民が舞鶴の良さをもっと知る。市のHPや広報紙をしっかりと見て、情報収集する。

#### 移住・定住の支援について

- 移住者を柔軟な心で受入れ、サポートしようという意識を市民が持つ。

### ③ その他

#### 布敷地区の取り組みについて

- 地域資源を活かし、地域のにぎわいを取り戻そうという布敷地区の取り組みは、地方創生の根本だ。コミュニティのリーダーの存在も大切である。
- 布敷地区では、和気あいあいとした雰囲気の中、皆が「地域のために頑張れることは頑張ろう、できることからやろう」と思い、活動してきた。また、行政に頼りすぎず、自分たちでできる範囲でやっていくことが大切。
- 地域・自治会間の交流がもっと盛んになると良い。市の地域づくりサポート制度の利用で、成功した事例にとっても興味を持った。市役所に地域起こし隊を確立し、積極的に市民に働きかけてほしい。

(参考：傍聴者の主な意見)

#### ① 取り組みをより良くするためには

#### 取り組み全般について

- 良い取り組みをしているので、移住・定住の取り組みや成果を移住希望者に積極的にPRする。
- 観光客が移住希望者になる可能性もあるため、観光客にも舞鶴の良さ、住みやすさを知らせるガイドブックを作成し、配布する。
- 舞鶴の知名度が低く移住希望者の選択肢に入っていない。ターゲットを絞った広報を。
- 「地域リーダー養成」「婚活支援」は珍しい取り組みであり、これらに重点を置くべき。
- 今行っている施策にじっくり取り組み効果を検証すれば、5年・10年後に成果が出る。

### 移住・定住の支援について

- 移住希望者への相談窓口を分かりやすく設置する。
- 空き家バンクは、民間企業と連携し、そのノウハウや取り組みを利用してはどうか。
- 舞鶴に移住するメリット、市のコンセプト、テーマを魅力的にPRする。
- 移住のターゲットを定めて、メリハリの利いた政策を実行すべき。
- I・J・Uターンした人の情報を広報紙などで知らせる。
- 夏休みなどを利用し、小中学生に移住体験をしてもらう。市民農園に都会の人を呼び込む。
- 自然・文化・歴史の良さだけでは移住しない。経済的なインセンティブを与える施策が求められるのではないか。
- 移住者に自家用車の購入やレンタルの支援をする。

### 婚活の支援について

- 婚活イベントの情報を、市内企業へ周知し、気軽な出会いを求める参加者を増やす。
- 婚活の対象年齢を細かく設定するなど、年齢・テーマを絞った方がマッチングしやすい。
- 舞鶴の食材を活かした婚活イベントをしてはどうか。

### 就職の支援について

- 農業・漁業以外にも働く場が必要である。また、舞鶴で働いた時、生活できるだけの収入があるのか、金銭的なイメージを具体的に紹介できると良い。
- 働く場があること、舞鶴の企業の良さをアピールする情報発信が必要。
- 生活を支えられる仕事があることが大切。就労支援に力を入れてほしい。
- 地元企業やハローワーク、ジョブパークと連携し、雇用の促進に努める。

## ② 市民ができること

### 取り組み全般について

- 次の世代へ引き継いでいくためのリーダー養成をしていく努力をする。
- 地域で話し合いをし、自治会への参加を進めて行く。地域の行事に積極的に参加する。
- 「よそ者」を排除する意識を変え、移住者を受け入れる気持ちを市民が持つ。

## ③ その他

- まちなかエリアを商店街中心に設定しているが、交通の利便性、買い物しやすい、病院が近い、大型ショッピングセンターの近くなどに絞った方が良いのでは。
- 京都府北部圏（5市2町）の情報掲示板をインターネットに掲載したらどうか。
- 移住・定住の取り組みの課題や問題点も教えてほしい。
- 商店街の活性化のため、新進の芸術家などの活動家を格安で誘致してはどうか。

### 布敷地区の取り組みについて

- 布敷地区の取り組みは他地区でもできるものがある。地域に文化として残っていくので、大変素晴らしい。

#### (4) 市民審査員 評価結果

	① 予算投入するなど、 より力を入れて推進する	② 今のやり方で 進める	③ やり方に工夫が 必要
取り組みの 方向性	7	5	3

#### (5) コーディネーターによる総括

- ◇ 現在、移住・定住に繋がると思われる施策を多方面から実施していることが分かったが、より成果を出すためには、移住・定住のターゲットやテーマを絞るなど、やり方に工夫が必要であると思われる。



積極的な意見交換が展開される

## 第2テーマ 『子育て・保育・教育環境の充実』

(1) 担当課による説明(資料による)

(2) 市民審査員による意見交換

—主な意見—

① 取り組みをより良くするためには

取り組み全般について

- 小学生以上の子どもが集まって遊べる場(例: 体育館・図書館などを備えた青少年センターなど)があると良い。
- 乳幼児への事業は充実しているので、小学生以上への事業のさらなる充実を。
- 多くの市民に新しい制度などを知ってもらうことで、舞鶴の教育や子育て支援事業に対する評価は上がると思う。
- 舞鶴の教育が遅れていると市民が思いこんでいるが、決して遅れてはいない。文科省の事業に応募したり、専門誌に取り上げられたりして、広くPRし、視察も増やし、外部の力を借りて、市民の意識を変えてはどうか。
- 子育て支援は地方創生の根幹を担う事業。舞鶴は先進的な取り組みをよくやっている。
- あそびあむ(子育て交流施設)は、舞鶴市が誇る子どもと親の絆を深める遊び場。あそびあむをPRすることで「乳幼児教育のまち舞鶴」がクローズアップされると思う。

乳幼児教育について

- 認定こども園は土日祝日も利用できれば、土日祝日に勤務がある人には便利。

小・中学校教育について

- 学童保育とは別に、退職した先生が勉強のサポートをする場所を作る。
- 学習サポーターの充実が必要。
- 小中一貫教育では、生徒の習熟度に合わせたきめ細かい教育を行う。また、小学生・中学生の交流の場を作り、上級生が下級生の世話をする機会を作る。
- 小中一貫教育は、中1ギャップがなくなる取り組みとしてとても良いし、保護者としてありがたい。
- 小規模の小学校から中学校に入学する際、なじめない子へのサポート体制があると良い。
- ふるさと舞鶴を愛する心やアイデンティティの醸成のため、小学校での歴史教育が重要。
- 市民ならだれでも知っていて誇れるもの(市歌など)・共通認識を作り、学校で教える。
- 教師が舞鶴の魅力を子どもに伝えられるよう、地元出身の教師を増やす。他市出身の教師には、舞鶴についてしっかり学習させる。
- 子どもの夢も年齢とともに変わる。成長の中で適性を見つけられる教育カリキュラムがほしい。

夢チャレンジサポート事業について

- 卒業生で活躍している人に講演してもらえば、校区に誇りを持つと思う。



取り組みを説明する担当者

- 子どもが夢を持ち舞鶴に住み続けるために、小学校高学年から中学校にかけて毎年職業体験し、舞鶴に仕事があることを知らせてはどうか。
- 小学校から職場体験をできたら良い。地元企業の社会見学をたくさん行う。
- 夢講演会について、スポーツ選手など特別な人だけでなく、一般企業で働く人にも講演してもらおう。(特出した能力がなくても夢に向かって頑張ることを考える機会を作る)
- やる気があって将来有望な生徒は、公費で留学させてはどうか。
- 夢チャレンジテストのおかげで、自分の実力が把握でき、親子で目標に向けてがんばることができ、志望校への入学が叶った。感謝している。

#### 子ども・子育て相談・支援の充実について

- 「子どもなんでも相談窓口」はありがたい。たくさんの人に周知してほしい。
- 幼稚園・小・中学校の先生と保護者がもっと信頼関係を持てるよう、先生と話せる機会が増やせないか。(例：メールでの担任とのやり取りなど)
- 平日働く母親のために、乳幼児教育センターは、土日祝日も開いていると便利。
- 相談窓口が充実していることは素晴らしいが、例えば、電話で相談し、その先どうなるのかが知りたい。「子ども総合相談窓口」はどういう体制なのか、分かりにくい。
- 子育て経験者が相談に乗り、アドバイスができるような場があると良い。

### ② 市民ができること

#### 取り組み全般について

- 地域の行事を通じて、大人と子どものつながりを深め、しつけ・常識を教えたい。
- 学校だけではなく、地域で郷土愛を育む取り組みが必要。
- 地域、保護者、学校など、子どもを取り巻く者がより連携を深める。
- 何をしてもらえるかではなく、どうやって地域の子育てに協力できるかという意識を養うことが重要。

#### 小・中学校教育について

- 小学生と中学生が交流する場を地域が提供する。その際には、保護者がサポートする。

#### 子ども・子育て相談・支援の充実について

- 困った時に相談し頼れる人がいないという声に対し、私たちが妊婦・子育て中の親・子どもへ手を貸してサポートしようという気配りを持ちたい。
- 近所の子育て家庭へ声掛けや見守りをしていきたい。
- 舞鶴の子育て支援は他地域に比べて比較的良いと聞かすが、子育て時に引きこもりになる母親がいるので、そういう人を支援する方法を考えたい。

### ③ その他

- 引き続き子育てに悩む親への支援をお願いしたい。明日の舞鶴を良くするために、学校の先生には、粘り強い教育をお願いしたい。

(参考：傍聴者の主な意見)

#### ① 取り組みをより良くするためには

##### 取り組み全般について

- 市民に舞鶴の「歴史・文化・自然」について学習してもらうため、市の出前講座を拡充。
- 今は将来に向けた「種まき」の段階。市が音頭を取るだけでなく、保護者などのニーズを把握し、施策に反映させてはどうか。
- 女性が仕事と子育てを両立しやすい環境（待機児童なし、送迎支援ありなど）や質の良い乳幼児教育などをアピールすれば、移住・定住希望者も増えるのではないか。
- 中高生が気楽に集まれる場で校区を超えたつながりを持てるようになると良い。

##### 乳幼児教育について

- 保育士の労働環境の充実を図り、保育士を増やす。
- 保育士の指導力の向上のための研修の充実を図る。

##### 小・中学校教育について

- ふるさと学習に大賛成。小学校区ごとの歴史や文化は異なるので、校区ごとのふるさと教育を実施。引揚に対する教育は、舞鶴特有の内容であり、さらに充実を。
- 子どもたちに「舞鶴で暮らすとこんなことができる」と思わせ、舞鶴で夢を実現させようと思わせる取り組みを実施。
- 教師の指導力の向上が必須であるため、研修の充実を図る。
- 高校までの小中高一貫教育の設置は考えられないか。
- 小学校は旧村単位にあり、地域の文化コミュニティの拠点であった。小中一貫教育では、各地域の特色ある伝統・文化に目を向けられなくなると危惧する。
- 知識だけではなく「考え方を育てる教育」を一貫して行ってはどうか。
- 勉強についていけない子や環境不適應な児童・いじめを減らす取り組みも充実させる。
- 小中学校での ICT 教育を進める。

##### 夢チャレンジサポート事業について

- 職種に応じた体験イベントや行事を年齢に合わせて行ってはどうか。
- 小学校高学年から中学校にかけて「働く」ことについての学習をする。職場体験に加え、企業から学校に出向いての講座もできないか。
- 夢の選択肢を教えることは必要だが、基礎教育の早い段階で、夢を絞りすぎると可能性を制限することにならないか。

##### 子ども・子育て相談・支援の充実について

- ワンストップの相談窓口ができたことはとても分かりやすく良いが、保健センターや子育て支援基幹センターとの連携がスムーズにできればと思う。
- 「子どもなんでも相談窓口」はとても良いので、多くの市民に周知されるよう、保育所などにも情報を掲示するなど広報が必要。
- 子ども総合相談センターと保健センター、子育て支援基幹センターだけではなく、保育

所・幼稚園、小・中学校、高校とも密に連絡を取ることが必要。

## ② 市民ができること

### 取り組み全般について

- 舞鶴市民が舞鶴の魅力を周りの人や子どもに伝える。地元への愛着を高めるため、家族と舞鶴の良いところを共有する。
- 市の施策を良く知った上で、主体者として改善・提案などを行う。
- 布敷地区のような人のつながりが強い地区では、地域で子育てをする環境がある。市街地でも地域で子育てをする環境づくりを目指す。

### 乳幼児教育について

- 保育所の運営や保育環境に対し保護者が主体的に関わり、行事に積極的に参加する。

### 小・中学校教育について

- ふるさと学習（地域の歴史を語るなど）のサポートをしたい。
- 幼少時から様々な体験をさせ自分の将来について自分で考える若者に育てる努力をする。

### 子ども・子育て相談・支援の充実について

- 子育て経験者や知識が豊富な人が、子育てに関する相談を受ける。

## ③ その他

- 幼稚園と老人施設との積極的な交流を進める。
- 教育環境の充実のために、市民の税負担が増えることがないようにしてほしい。
- 行政だけではなく、企業・会社へ働きかけ、子育てしやすい環境を作ることも大事。
- 対象は多くはないと思うが「こども食堂」が必要だと思う。

## (3) 市民審査員 評価結果

	① 予算投入するなど、より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	5	7	2

※無回答 1

## (4) コーディネーターによる総括

- ◇ 地方創生の考え方から、地域を知り、愛し、地域を良くしたいという思いを多くの人が持たれた。ただし、やり方はなかなか難しい。
- ◇ 他の地域の人から見たら、舞鶴は素晴らしいと思えるところもある。
- ◇ 今の取り組みは概ね良い。幼稚園→小学校→中学校→高校への切れ目のない支援に期待している人が多い。今後もやり方を充実させ、舞鶴で生まれた子どもが能力・希望次第で多様な選択肢を選べる環境を望んでいる。

## 第3テーマ 『質の高い教育環境づくり・地元就労支援』

### (1) 担当課による説明（資料による）

### (2) 市民審査員による意見交換

#### —主な意見—

#### ① 取り組みをより良くするためには

##### 取り組み全般について

- 「地元での就職先が少ない」というイメージが強かったが、そうではないことが分かった。PRが必要。特に親に舞鶴市内の学校・会社について知ってもらうことも大事。
- 市外に出た学生が舞鶴に戻り働いてもらうために、地元の良さを知り、地元愛を持たせることが大切。

##### 質の高い教育環境づくりについて

- 市民が高等教育機関のことをあまり知らない。地方都市の中では、教育環境は充実していると思う。もっとPRが必要。（高校や高等教育機関のPR広報紙の配布は良い）
- 優秀な先生・指導者が不可欠で、大学などと連携して外部の指導者も活用してほしい。小学校では地元教員が地域を大切にしながら基礎を教え、中高生には得意分野を伸ばす教育が良いと思う。
- 世界からお金が取れる付加価値の高い産業を興す人材を育成する教育が必要。
- 市民と学生が交流できる場を作る。
- オープンキャンパスが進学先を決めるきっかけになったので、オープンキャンパス等の情報を親・子に発信する。

##### 地元就労支援について

- 「市民に舞鶴には働く場所がある」という認識を持ってもらうよう、情報提供をする。
- 就職を考える高校生や地元を離れている大学生に舞鶴の求人情報を細かく発信する。（例：舞鶴の高校の卒業生の連絡先を聞き、地元での就職についての情報をメールで送る。）
- 現在の地元就労支援の取り組みを継続することで成果が出ると思う。
- U・I・J ターン向け就労について保護者向けの情報提供をしたり、インターネットでの発信方法も工夫されたりしているのが分かった。
- 就職活動をする学生向けに地元の求人情報がまとまっていて便利になっているのは素晴らしい。
- 小中学校・高校で、さまざまな経験（自分に合う職種を知るために、職業体験できるイベント、インターンシップ等）ができる機会を作る。
- 市内の多くの職種で、就労体験を複数回、体験できるようにする。（夏休みを利用する等）
- 小学校の修学旅行でキッザニアに行くのは良い。
- 舞鶴に働く場がないのではなく、働きたいと思える場がないと思う。女性が働きやすい、資格がなくても働ける場がどのくらいあるのか、知りたい。もっと企業の細かい情報が簡単に得られるようにしてほしい。

- 自分に合う仕事、働く環境、働きやすいかななどの情報とともに、それを見極める方法を教えてほしい。
- 女性が働きやすい会社は男性にも働きやすい会社だと思う。企業も意識を変え、女性の働く場としてPRする。
- サービス業や介護などの人材不足の職種は、時間や休日が合わないこともミスマッチの原因だと思うので、例えば、土日に保育園を開園するなどでできれば、就職希望者も増えるのではないかな。
- ハローワーク、ジョブサポには親身になって相談に乗ってもらっていて感謝している。
- 学校も、地元での就職を生徒に進める。
- 有効求人倍率は高いが、職種によって低いものもあり、ミスマッチが起こっている。
- 舞鶴にある高等教育機関は専門性が高く、学校で学んだことを地元で活かせる職種がないことが多い。高等教育機関の学生には別のアプローチも必要ではないかな。(例：就職活動を始める前に、高等教育機関の技術が活かせる舞鶴の企業を紹介するなど)
- 市内で優れた技術を持つ会社は、会社から学生にアピールできると良い。
- 市役所が地元採用枠を作って、地元出身者の採用を増やしてほしい。
- 企業誘致を進めて働く場を増やす。
- 企業立地の取り組みは、綾部市や福知山市など5市2町で考えることが有効ではないかな。

## ② 市民ができること

### 取り組み全般について

- 情報を待つばかりではなく、自分からも情報を取ろうという姿勢を持つこと。(メール配信サービスは全市民が登録するなど)。情報を知ることに関心も湧き、市が盛り上がる。
- 地域で郷土愛を育む取り組みを行う。(例：自分の子どもに舞鶴の良さを伝える)
- 大人が子どもに対して、教育・進学・就職についての話を日常的にすることで子どもの意識も変わると思う。親が学校や企業について知ることが大切。

### 質の高い教育環境づくりについて

- ポリテクなどのオープンキャンパスに市民も足を運び、興味を持つ。

### 地元就労支援について

- 「舞鶴には働く場がある」ことを伝える。
- 子どもや友人の相談にのる。親が子どもの就職についてもっと関心を持つ。

## ③ その他

- 就職支援のほかに、就職後の相談窓口も必要。
- FM まいづるは、地元の今の情報を得るのにとっても役に立つ。
- メール配信サービスは、できるだけ多くの人に登録してもらえよう、携帯販売店でサービスとして登録してもらえないかな。

(参考：傍聴者の意見)

### ① 取り組みをより良くするためには

### 取り組み全般について

- 良い取り組みだ。学校関係者や利用者にアンケートをし、改善すべき点があれば改善し、より良いものにしていく。
- 関係機関が連携して取り組みことが大事。

### 質の高い教育環境づくりについて

- 舞鶴市内にも中高一貫教育校があっても良い。

### 地元就労支援について

- 「舞鶴働く場ガイド」は京都府北部全体の情報も掲載し、北部全体でU・Iターン希望者を取りこむのが良い。
- 地元の企業情報のPR。
- 舞鶴市内の中小企業について学習する（例：小中高校生へ地元企業が講師の「ミライスクール」を開講）
- 就職フェアの時期を工夫する。保護者向けの就職説明会は大学生の夏休み前にも実施してはどうか。就職活動中の人向けに電話で就職相談ができる窓口を作ってはどうか。
- Uターンが比較的少ない女性に対して高校卒業時に積極的にアプローチしてはどうか。
- 「ワークライフバランス」が取れる町であることをPRしてはどうか。
- 舞鶴での生活、生き方について関心を高める取組を実施。
- ポリテク・高専への有効求人倍率が分からない。専門性を求める企業の情報がない。
- 募集している企業の数よりも質が求められると思う。舞鶴に戻りたいと思わせる業種や職種を増やす取り組みが重要。働く場はあっても希望職種とのミスマッチがある。企業の強みや特徴をもっとアピールし、マッチングの取り組みが必要。
- 起業ができる町となるために起業を促進する取り組み・補助、コミュニティの形成必要。

## ② 市民ができること

### 取り組み全般について

- 大人は子どもの良きアドバイザーとなれるよう、市内で働く実態や企業情報を知る。
- 規模を問わず市民も起業し「住みがいのある町」をアピールする取り組みをする。
- 働きながら子どもも欲しいと思う高校・大学生に、それが叶うことを身近な人が伝える。

### 地元就労支援について

- 雇用されなくても起業の道があることを知らせる。

## (3) 市民審査員 評価結果

	① 予算投入するなど、より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	8	4	2

※無回答 1

#### (4) コーディネーターによる総括

- このまま取り組みを推進してほしいという意見もあった一方で、やり方に工夫が必要、もう一步踏み込んで取り組みを進めることも必要という意見もあった。



自分の生活の中での感想、思いなど、市民審査員同士で活発な意見交換が行われる

## 全体まとめ

### (1) 市民審査員 アンケート結果

舞鶴市は、これからも住み続けたいまちだと思いますか？

とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない
4	10	0	1	0

#### 【理由】

##### <とても思う>

- 市民レビューのような話合いがあれば、舞鶴は悪くならないと思うし、舞鶴に住んでいきたいと思う。
- 赤と青、赤れんが、旧海軍と城下町、海あり五老ヶ岳の絶景あり、魅力あふれる舞鶴は、一度住むと必ずファンになるまちだ。
- 市が頑張っていることを実感し、「良いまちに住んでいる」と思えた。私にもできることを見つけて元気な舞鶴になるよう努力したい。
- 取り組み施策に共感できた。

##### <思う>

- 良い取り組みをしているので、情報発信をさらに工夫すると良い。
- 「自然豊かで暮らしやすいまちである」と考え直すきっかけになった。
- 自然に恵まれ、市民が皆近い距離にいて、真剣にいろんなことを考えることができる。「住みよい舞鶴にしたい」と思っている人が周りにたくさんいると思うと、うれしい。
- 舞鶴で生まれ、舞鶴で育った。いろんな取り組みをしているので、今後どう変わっていくかを見て行きたい。
- 海があり海鮮がおいしい。住みなれたまちで、市政について話を聞き「いろいろなことに力を入れている町なら安心して住める」と感じた。
- 住み慣れたまちであり、自分も子どもも舞鶴で育ち、子どもにもいずれ舞鶴で働いてほしいと思っている。不便さをあまり感じない。だんだんと良くなっていると思う。若者が遊べる場所や大型デパートなどができれば市外に行かなくても良くなると思う。
- 自然や歴史など良いところがたくさんあることを改めて感じた。移住者の受け入れも大切だと思う。
- 舞鶴がふるさとである子どものためにもより良い舞鶴にしたい。
- 住むにはとても良いところだが、経営するには規模が小さい。

##### <あまり思わない>

- 舞鶴の高等教育機関で学んだことを活かせる企業が少ない。教育、観光地としては良いが働く場としては満足できない。

## (2) 市民審査員の感想

### **【市民レビューについて】**

- ◇ いろいろな人の話を聞くことができ良かった。舞鶴で生まれた子どもが舞鶴で進学・就職していけたらいいと思う。
- ◇ 様々な人の意見を聞き、自分の未熟さを感じる学びの多い一日だった。
- ◇ まちのことを考え、たくさんの人が活動していることを知り、うれしく思う。
- ◇ 多くの人と舞鶴について話しあえて良かったし、舞鶴を誇りに思う。他の学校の学生と話ができて新鮮だった。
- ◇ 自分が舞鶴のことをあまり知らなかったことに気がついた。家庭で、子どもに「舞鶴でも就職できる」と伝えたい。
- ◇ 舞鶴のイメージが「人口減少や高齢化」というイメージがあり、前途に不安があったが、今日参加してみて、自然が豊かで暮らしやすいまちという認識に変わった。
- ◇ 次回は「高齢者」をテーマとした話を聞きたい。
- ◇ 言いたいことの半分程度しか発言はできなかったが、良い一日だった。
- ◇ いろいろな課題はあるが、市が手を打っておられることが分かって安心した。また自分がまちのために何ができるかを考えるきっかけになった。
- ◇ 若い人や市外出身者の人の話を聞くことができ、収穫のある一日だった。市民の責任として、歳を取っても、自分で情報を取りに行き、伝えて行くことが大切だ。
- ◇ 地域全体で地域の歴史や文化などを教えていくことが大事だ。
- ◇ 市と連携して、世界からお金を落としてもらえような仕組みを考えたい。
- ◇ これまでこんなに舞鶴のことを考えたことはなかった。今回知ったことを子どもに伝えたい。
- ◇ 市民レビューに参加でき、貴重な経験になった。舞鶴にも良いところはある。行政に頼らず、市民も舞鶴について考える必要があると思った。
- ◇ 思ったより傍聴者が多く、地方創生への関心の高さがうかがえた。

### **【取り組みについて】**

- ◇ 3つの政策はどれもが素晴らしい取り組みであるが、それぞれが独立して取り組まれている印象を受けた。同じ「地方創生」の取り組みであるので、連携して取り組むと良い。
- ◇ 移住政策は移住する人の立場での支援が必要。また市民が移住者を受け入れる心を持つことも大切。舞鶴が移住地として選ばれるために、「移住者受け入れ体制日本一」のような他地域との差別化、舞鶴にしかないものが必要。

## (3) コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 市民審査員の皆さんが趣旨を理解の上、意見交換をされ、良い議論になったと思う。
- ◇ これを機に市政への意見があれば、どんどん市へ意見を伝えてほしい。
- ◇ 市民レビューは市政に市民の意見を取り入れるだけではなく、市民が市政に関わる場を設けることで、もっと市政に参加しようという気持ちを育むという目的もある。その意味でも大変よい機会であった。
- ◇ 今回のテーマは「移住・定住の促進」。総じて方向性や取り組みは良いが、これまでの行政からもう一歩踏み込んで、思いきった発想で政策を行ってもよいのではないか。とい

う意見があった。

- ◇ 全国的に「地方創生」の評価を手探りで行っている段階である。その中で、地方創生の取り組み全体についてあらゆる立場の市民が参加する形の評価を行ったことは、先進的な取り組みであると思う。この地域の力を示すものだと思う。
- ◇ 今回の市民レビューは、初の取り組みであり、市民の皆さんが議論をするやり方としては良かった。次年度はさらにより議論が深まるよう、工夫をしてほしい。
- ◇ 今回議論した3つのテーマに関係する今後の取り組みに期待したい。
- ◇ 市民の皆さんには、引き続き、「地方創生」の取り組みに関心を持ってほしい。

## 閉会式

### 入江企画管理部長 挨拶

「市民審査員」の皆さんをはじめ、本日まで参加いただきました皆さん、コーディネーター役の窪田先生には、大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。

「市民目線」「外からの評価」という観点で実施している取り組みだが、今回は「市民レビュー」と題して、本市が取り組んでいる「舞鶴版・地方創生」について、「取組をさらに推進するためにはどうしたら良いか」という視点で、それぞれの立場で意見交換を行っていただくという新しいスタイルで実施した。

3つのテーマについての建設的な意見交換を通じ、「地方創生」を進めて行く上で、参考となる示唆をいただけた。

本日参加された皆さんには、「舞鶴版・地方創生」の取り組みに、「積極的に参画しよう、参画したい」と感じていただければ幸いだ。

「地方創生」には、大人が地域に愛着と誇りを持って、未来を担う子どもたちに、地域の素晴らしさをしっかりと伝えていくことが必要。「そのためには、具体的にどう行動すればいいのか」、布敷地区の事例のように、「当事者意識が求められている」と考えている。

市としては、これからもあらゆる機会を通じて、市民の皆さんに「地方創生」について考えていただく機会を設けるとともに、目指す目標である『「交流人口300万人、経済人口10万人」都市・舞鶴』の実現に向けて、市民の皆さんと行政が一丸となって取り組んでいきたい。引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願いしたい。